

小学校だより

クリーン作戦をつひめて(4年生)

四年生は、一学期の総合学習で「クリーン作戦」を行いました。その時に学習したことを紹介します。

○おこなった日

六月八日(火)

○場所

学校前の横断歩道から中土居までの歩道

○どんなゴミがあったか？

- ・「燃えるゴミ」：たばこ、箱お菓子の袋、紙類など
- ・「燃えないゴミ」：針金、ガラス、電池など
- ・「資源ゴミ」：ペットボトル、かん、ビンなど

*拾ったゴミの重さは、合計で一六〇〇グラムになりました。

○特に多かったゴミは？

・「たばこ」で一五〇本以上落ちていました。

○歩道のどの辺りにゴミが多かったか？

・歩道のはしっこ

○どうしてこんなにゴミがあったのだろう？

- ・ちゃんとゴミ箱に捨てない人がいるから。
- ・平気でポイ捨てをする人がいるから。
- ・車からポイ捨てをする人もいるから。
- ・少しのゴミくらい、いいだろうと思っている人がいるから。

○どうしたらこんなゴミがなくなるか？(四年生の意見)

- ①家族や地域の方にこんなにゴミがあったことを伝える。
- ②ゴミを捨てないでほしいと小学校のみんなにもお願いする。
- ③自分で出したゴミは自分で始末するようにする。
- ④ポイ捨てをしたら、みんなの迷惑になることを知らせる。
- ⑤ゴミを見つけたら、自然に拾

える気持ちをもつこと。

⑥自分のこともみんなのことも考えられる気持ちをもつこと。

⑦「みんなでこの村をきれいにしよう」とする雰囲気をつくること。

○クリーン作戦をした感想

- ・こんなにゴミがあるとは思いませんでした。
- ・まだ使える物もあったので、もったいないと感じました。
- ・ゴミは環境に悪いので、みんなが気をつけなければいけないと感じました。

私たちが大人になってもきれいな村でありますように・・・

西粟倉小学校 四年

延 東 佳 音

熊 本 涼

白 簾 聖 理 奈

林 永 真

政 久 春 斗

宮 本 瑠 士



西栗倉中学校だより

読書感想文紹介

「ぼくたちと駐在さんの
七百日戦争」を読んで

西栗倉中学校 三年

河野朋実



人というものはどれほど何かに夢中になれる生き物だろう。どんなに小さくて、無意味でだれかに反対されたとしても。私は今まで少しくらい夢中になれるものはあった。それはそこそやっていておもしろいから好きだったし、何度も繰り返し楽しんだけど、月日がたつと別のことに目がいつ

てしまう。それは自分の中で「流行」しているだけであって「夢中」になっている訳ではない。

この本を読み進めていく間に何度「うらやましい」と思ったことか。こんなに夢中になれるものを見つけて、共に夢中になれる友達を見つけられるなんて。私は駐在さんへのいたずらに夢中な主人公達がキラキラ輝いてみえる。きつと何かに夢中ななって、笑って、それを楽しいと感じた時、人は誰でも何にも負けない光を全身から放つことができるのだろう。私が輝いていた時が今まで何度あったのだろうか。きつと一度もない。「楽しいな」とか「もつとこの時間が続けばいいのにな」とか思っている時すら、自分が輝いている感覚はしない。まあそれは本当に夢中になっている訳ではないからあたりまえといえどもあたりまえだけだ。

ではどうやって夢中になるものを探せばいいのだろう。そもそも夢中になるものを探すものではなく、「これだ!」とか言うこともなく、気付いたらそのことばかり考えている自分がいることなのだろう。この物語でも誰一人「自分達が夢中になるべきことはこれだ」「これに夢中になろう」とは言っていない。だから探せないぶん、夢

中になれる日が来なかったらどうしようかと焦る自分がある。何かに夢中になりたい。何かとは何だろう。これか、あれか。これに夢中になってみよう。そんなのじゃ上手くいく訳がない。どうせすぐあきてしまうだけだ。色々考えた結果、私は夢中になることを探さないようにしようと思った。きつと私にも、この本で主人公達が駐在さんに初めていたずらをした時の様な感情がわいてくるだろう。

「やられたらやり返すっ!」。この話にこの言葉は何度も使われている。私はなんだかこの言葉はそのことがとても好きだ。なぜなら、それこそ夢中になっているということだからだ。「これをやられてしまったから、これをやって返そう」という言葉はそのことがとても好きだったり、戦う相手がすごく憎いけどどこか好きだったりした時に使う言葉だと思う。私は「やられたらやり返す」などという言葉は言ったことがないし、そんな風に考えて生きていない。私の場合はやられたらものすごく凹むか、ものすごく悔やむか、良くて「こんな風にやりかえせたら・・・」と想像するくらいのことしかしない。でもやっぱやりやられたら、きつちりやり返すべきだと考えさせ

られる。これはいたずらだけではなくすべてのことに関して、そう言えると思う。それに夢中にはなれないかもしれないけど、やり返すために動き出すことができる。「やられたらやり返す」という言葉が出てくる度に、私は「やられたらやり返す精神」を身に付けたら夢中になれるものの何かが分かるようになるのではないかと、うずうずしてしまうようになった。

私はこの本からヒントを得て、夢中になれる何かを見つけられるためにできることを考えてみた。まず、第一に決して無理やり探しまくったりしないこと。心の奥の最も正直な自分まで殺して夢中になろうとがんばっても、絶対にいいことはない。たぶん自分にはそういう部分があると思うから、できるだけ自然体で、本当の自分の姿で、物事を見ていけたらいいのではないかと思う。第二に夢中になれる何かを見つけるチャンスをたくさんつくること。そのためには「やられたらやり返す」というように、小さくてあまり意味や価値があるように思えないことでも、まず動いてみるのが大切だと思う。

「何かに夢中になること」。それは私の永遠のテーマであり、目標である。初めて目の前に駐在さんが現れた時に主人公達が受けた、

電気が走ったような感情が、私にも感じられるかどうかは定かでない。これからもこれまでと同じように「流行」と「夢中になつていくこと」の区別がつかなくて、ただの「流行」だと分かれると気が沈んでしまうこともあると思う。でも、夢中になれることが見つかるならそれでいい。そうやって一つ一つ学んでいこう。そうして一つでも多くのものを手に入れよう。未来の自分が夢中になれるものを見つけて、それに向かってがむしゃらに突き進んでいることを願っている





★ようちえんだよい★

10月1日は、子どもたちが楽しみにしていた親子バス遠足♪今年も、神戸にある『王子動物園』に行ってきました！

たくさんの動物達に大喜びの子どもたち★ライオンやパンダ、ゾウやキリンを見てとっても嬉しそうでしたよ♪「ライオンが寝とってかわかった」「ゾウが大きかったな」「コウモリの所が楽しかった」「パンダが餌食べてたよ」と楽しい思い出がたくさん出来たようです☆

幼稚園では、年長児の提案でたぐいま「動物園ごっこ」に取り組んでいます♪幼稚園の中には楽しい動物たちが・・・♪子どもたちの経験や発想を活かして楽しい遊びを行っていきたいと思います！

